

道標～みちしるべ～



第5号

平成 28 年 (2016 年) 2 月発行
みはらライフケアクリニック
(TEL : 096-237-7555)

“がん”と向き合う！

(院長：三原 修一)

“がん”の早期発見は、私のライフワークの一つです。私は上部消化管内視鏡（胃カメラ）や大腸内視鏡を駆使して食道癌、胃癌、大腸癌を探します。検査技師は超音波検査を駆使して肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、甲状腺、乳腺などの癌を探してくれます。この4年間に発見された癌は、甲状腺癌 24 例、大腸癌 18 例、胃癌 13 例、肝臓癌 10 例、乳癌 8 例、膵臓癌 4 例、前立腺癌 4 例、膀胱癌 2 例、皮膚癌 2 例など 97 例で、手術拒否例などを除く 86 例中 78 例(91%)に切除手術が施行されました。毎月 2 例程度の割合で癌が発見されたことになります。

胃癌や大腸癌、胆嚢癌、腎臓癌、膀胱癌などは、早期に発見すれば内視鏡的切除が可能であり、開腹手術をせずに済みます。乳癌も進行癌では乳房を全摘しますが、早期癌では部分切除で済みます。体に大きな傷が残ることもなく、精神的にも肉体的にも、また経済的にも大きなメリットがあります。大腸内視鏡では前癌病変もたくさん見つかりますが、全て内視鏡で切除できています。一方、膵臓癌や胆管癌のように早期発見がなかなか難しい癌もあります。当院では、高性能の超音波診断装置を用いて、少しでも早く発見できるよう努力しています。

癌を早期に発見するためには、定期的に検査（検診）を受けることが大切です。特に、何か症状があるときには早めに受診してください。腹痛を我慢して、検査に来た時には胃癌、大腸癌ですでに手遅れといった例もあります。

一つでも多くの“がん”を見つけたい、一人でも多くの人を救いたい、それが私の医療の原点です。これからも、より一層皆様のお役に立てるよう、スタッフとともに努力を重ねていきたいと思っています。

<特別寄稿>

私の思い

(村田 ふさ子様 67 歳 熊本市)

私と三原先生との出会いは、地域の集団検診の時でした。私がお産の時、弛緩出血で 4,200 cc 輸血したと話したら、一度検査するように勧められました。後日、三原先生に診てもらった結果、C型肝炎であることが分かりました。3 か月毎の受診で、超音波検査を定期的に行ってもらいました。それから何年かして、テレビや新聞等でC型肝炎のことをよく聞くようになりました。治療に対する助成金制度が始まり、私もインターフェロン治療により、副作用もなく順調に完治しました。

三原先生は、ちょっと早口で、熱心に超音波検査をしてくださいます。平成 20 年 6 月のことでした。超音波検査で膵臓に異常が見つかり、精密検査をするように熊本大学附属病院に紹介状を書いていただきました。精密検査の結果は膵臓癌と診断され、あまりにもショックで何が何だかわかりませんでした。1 週間後に入院し、手術は 13 時間にも及び、それは大変なものでした。手術後に、病院から三原先生にお手紙を出したことは覚えていますが、何を書いたかは定かではありません。その時の自分の精一杯の感謝の気持ちだったと思います。三原先生に早く発見していただいたおかげで、今元気に暮らしています。膵臓癌はその 8 割は手遅れで手術できないそうです。三原先生は私の命の恩人です。早期発見がいかに大切か知りました。

三原先生が開業されることを知った時、とても嬉しかったです。今は、主人ともども、みはらライフケアクリニックで検査をしていただきながら元気に過ごしています。“道標～みちしるべ～”を読ませてもらい、三原先生の医療への思いと業績を知り、尊敬し感激しました。これからも、三原先生とスタッフの皆様に会えるのを楽しみにしながら定期健診を続けていきたいと思っています。

<スタッフ紹介>

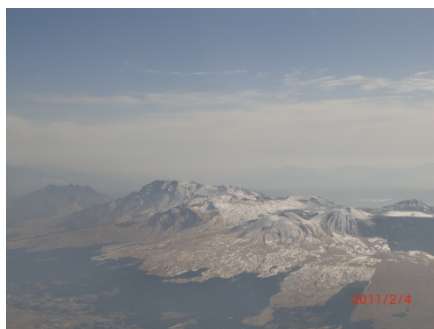
看護師：福原 美里 (乙女座 血液型：B型)

入職 3 年目。アラフォー。えくぼがトレードマーク。3 人の子育て真っ最中のママ看護師です。今はまっているのは断捨離。最近、ロングヘアを 50 cm ほどバツサリ！心機一転！次は、身体のお肉の断捨離を計画中です。皆様との出会いを活力源として、自己成長できるように、引き続き笑顔で頑張ります。

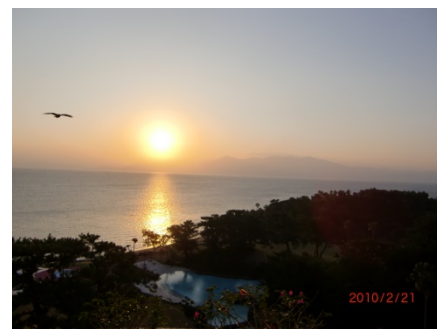
<季節のギャラリー・冬>



(蔵王から鳥海山を望む)



(雪の阿蘇五岳)



(錦江湾の朝日)

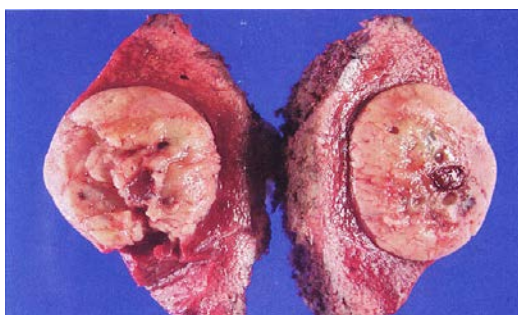
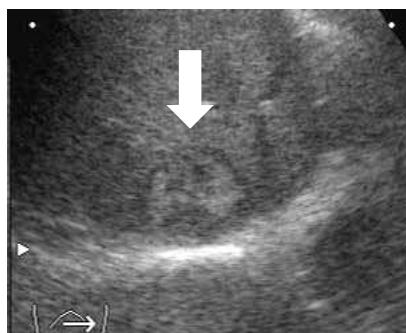
特集：“がん”で死ぬのはもったいない！

第5回：超音波検査ってすごい！～腹部超音波検査②：肝臓癌～

肝臓癌（肝細胞癌）は、腹部超音波検診で腎臓癌と並んで最も多く発見される癌です。以前は難治性の癌で、予後も極めて悪い癌でしたが、**超音波診断装置・CT検査・MRI検査**などによる診断技術と治療法が進歩したため、最近では**長期生存例が増えてきました**。癌の大きさや数によって、**切除手術**、**エタノール注入療法**（体の表面から癌に針を刺してアルコールで癌を潰す治療）、**ラジオ波焼灼療法**（針を刺して熱で癌を潰す治療）、**肝動脈塞栓療法**（下肢の動脈から細い管を入れ、制癌剤を注入すると同時に、癌を栄養する血管を詰める治療）、まれに**肝移植**などの治療が行われます。私たちのデータでは、**超音波検診で発見された肝臓癌の10年生存率は切除例で44.8%、その他の治療例で13.7%**でした。以前は、ほとんどの症例が数年で亡くなっていたことを考えると、大変な進歩です。切除手術をしなくても10年以上生きる例が増えてきたことは画期的ともいえます。肝臓癌に限らず、どの部位の癌でも小さいうちに発見して、早期に治療することが長期生存につながります。

肝臓癌の原因は80%くらいが**肝炎ウイルス感染（B型肝炎、C型肝炎）**です。さらに、そのうちの80%くらいがC型肝炎、20%くらいがB型肝炎関連の肝臓癌です。B型肝炎、C型肝炎いずれも血液感染症で、**B型肝炎ウイルスは主に母子感染で、C型肝炎ウイルスは主に過去の輸血や医療行為で感染**しています。肝炎ウイルスに感染し、慢性肝炎の状態となり、肝硬変へと進行していくにつれて、肝臓癌の発生する頻度が高くなります。まずは、肝炎ウイルス検診を受け、感染が判明した場合には必ず専門医で精密検査を受けてください。最近では、抗ウイルス薬の進歩が目覚ましく、**B型肝炎は内服によって進行を抑えることが可能です。C型肝炎は内服薬のみでほぼ根治する時代になってきました**。また最近では、脂肪肝から肝硬変、肝臓癌へと進展する例も増えており（**非アルコール性脂肪肝炎：NASH**）、アルコール性肝炎やその他の肝炎から肝臓癌が発生することもあります。

肝臓は非常に丈夫な臓器で、肝臓癌ができて相当進行するまで症状が出ません。**肝炎ウイルス検診に加えて、年1回の腹部超音波検診**を受けることをお勧めします。また、食事や運動不足に注意し、体重を減らして脂肪肝を改善したり、酒を減らすなど生活習慣の改善も大切です。



切除手術が施行された
肝細胞癌
(C型肝炎症例)

<お知らせ> 待ち時間短縮のため、ご予約の上お越しください！